

保護者様

令和4年度 前期自己評価について(お知らせ)



標記につきまして、国が定めております保育所、保育指針に基づき、保育所は保育の質の向上を図るため、保育士の自己評価を踏まえ、保育の計画の展開や保育の内容について前期分の評価を終了致しましたので、お知らせいたします。

【評価の目的】

- ・評価をすることで保育士等の専門性の向上と共に保育所全体の質の向上を図る。
- ・保育士一人ひとりが、自己の保育を振り返り、基盤となる子どもの理解を深めることで、日々の保育実践の意味を考え、次のより良い実践へと繋げていく。

【評価の方法】

- ① 保育所保育指針に基づく保育者のための「自己評価チェックリスト」を使い、第1章から第7章について各々自己評価をし、平均値を出し全体傾向をグラフにしました。
- ② 「保育を振り返る会」を開き、3グループに分かれ参加をした。
 - ・事前に配布した【保育所、認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト】を使い、「子どもを尊重する保育」のために何が大切で必要かを考え、発言する機会を持った。
 - ・自分たちが心を動かされた多くの子どもの姿、そして実践してきた保育を一人ひとりが話し、さらに今後の保育への思いを語り合う会とした。



【今期の評価を通して見えたこと】

- ① チェックリストの結果を令和3年度後期と比較すると、第3章「ねらい」および「内容」以外の項目においては概ね同率の結果となっている。第3章「ねらい」とおよび「内容」は達成度が1割程度下回り、前期においての新しい環境下での保育のスタートからその後、如何に的確に子どもの姿を捉え、保育の「ねらい」と「内容」を設定する事の難しさを感じた結果と考える。個人の不足する点は、職員間の連携協力で補いチームとして、一人ひとりの姿(発達・情緒)を捉え、必要かつ適切な「ねらい」と「内容」を考察することができた。後期においてはより高いチーム力、また、保護者との深い信頼関係の構築が重要と考える。
- ② 「保育を振り返る会」では予め、参加保育士は「人権擁護のためのセルフチェックリスト」の記入を行い、保育者としての、行動、子どもとの関わりを振り返る事で“人権擁護”と言う視点から、自己の行為を見つめ直し「子どもを尊重する保育」への理解と認識を深めた。また、一人ひとりがそれを伝えあう事で、他の保育士の思いや考えを理解し、共感することができた。

また、前半の保育を振り返る事で、あらためて子ども達の姿や成長を実感し、それぞれで実践してきた保育を認め合い、共有でき、自己の成長も実感する結果となっている。さらに伝えあう中で、チームとしての取り組みや協力が支えとなっていることを互いに確認し、共通認識する場となった。保育に対するやりがいと職務に対する責任と深い思いを共に感じることができ、今後のより良い保育の実践につながるものと考えている。

これからも保護者の方、一人ひとりの子どもに寄り添い、保育士として深い愛情を持って、子ども達に向き合うと共に、自己の保育を振り返ることを怠らず、他の保育士とのコミュニケーション力を高め、チーム力の向上に繋げていく。

今後も自己研鑽に努め、外部研修や園内研修での学びを深めることでより専門性を高め、実践する中で課題を明確にし、共有する事で園全体の質の向上を図る。



チェックリスト集計

令和4年度 前期

自己評価対象	チェック項目	項目数	「はい」の数	割合
第1章 総則		67	56	84%
	1 教育及び保育の基本と目標	13	12	92%
	2 特に配慮すべき事項	54	44	81%
	(1)教育及び保育の配慮	14	12	86%
	(2)健康支援	20	18	90%
	(3)食育	11	10	91%
	(4)特別支援教育・障害児保育	9	4	44%
第2章 子どもの発達		14	13	93%
第3章 「ねらい」及び「内容」		110	92	84%
	1 保育内容「健康」	22	21	95%
	2 保育内容「人間関係」	22	20	91%
	3 保育内容「環境」	22	15	68%
	4 保育内容「言葉」	22	20	91%
	5 保育内容「表現」	22	16	73%
第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項		40	37	93%
	1 乳児期の保育に関する配慮事項	28	25	89%
	2 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	12	12	100%
第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項		30	27	90%
第6章 研修と自己評価		15	12	80%
第7章 子育て支援		17	14	82%
	合計	293	251	86%

